平成２３年
人口動態統計（確定数）大分県の概況

目　　次

頁

結果の概要
　概況について …… １
　人口動態総覧 …… ２
　１　出生 …… ３
　２　合計特殊出生率 …… ３
　３　死亡 …… ４
　４　乳児死亡 …… ６
　５　新生児死亡 …… ６
　６　自然増加 …… ７
　７　死産 …… ８
　８　周産期死亡 …… ９
　９　婚姻 …… １０
　10　離婚 …… １１
　用語等の説明 …… １２

大分県福祉保健部

担当：福祉保健企画課　地域保健・情報班
（県庁内線２６２７、２６２８）

平成２４年９月１３日
福　祉　保　健　部

平成２３年人口動態統計（確定数）大分県の概況について

平成２３年の人口動態統計については、平成２４年６月５日に厚生労働省から概数の概況が公表され、平成２４年６月11日に大分県分について公表している。

このたび、平成２４年９月６日に全国分の確定数の概況が公表されたため、大分県分について取りまとめた。

確定数では、新生児死亡、周産期死亡、婚姻の３項目の大分県の全国順位が変動している。これは、全国順位については、概数公表時には端数処理され同順位となっていたものが、確定数の公表では端数処理せず順位付けしたこと等によるものである。

※　人口動態統計とは…戸籍法等による、出生、死亡、死産、婚姻及び離婚の５つの届出を基に市町村長が作成する人口動態調査票を取りまとめ、集計したもの。

人口動態総覧

		大分県			全国		
		２２年	２３年	対前年	２２年	２３年	対前年
1 出生	実数	10,072人	9,988人	△84人	1,071,304人	1,050,806人	△20,498人
	率	8.5	8.4	△ 0.1	8.5	8.3	△ 0.2
	順位	17位	16位	1位↑			
2 合計特殊出生率	率	1.56	1.55	△ 0.01	1.39	1.39	0.00
	順位	10位	11位	1位↓			
3 死亡	実数	12,988人	13,806人	818人	1,197,012人	1,253,066人	56,054人
	率	10.9	11.7	0.8	9.5	9.9	0.4
	順位	30位	32位	2位↓			
（再掲） 4 乳児死亡	実数	27人	32人	5人	2,450人	2,463人	13人
	率	2.7	3.2	0.5	2.3	2.3	0.0
	順位	36位	42位	6位↓			
（再掲） 5 新生児死亡	実数	13人	16人	3人	1,167人	1,147人	△20人
	率	1.3	1.6	0.3	1.1	1.1	0.0
	順位	35位	41位	6位↓			
6 自然増加	実数	△2,916人	△3,818人	△902人	△125,708人	△202,260人	△76,552人
	率	△ 2.5	△ 3.2	△ 0.7	△ 1.0	△ 1.6	△ 0.6
	順位	27位	27位	－			
7 死産	実数	312胎	301胎	△11胎	26,560胎	25,751胎	△809胎
	率	30.0	29.3	△ 0.7	24.2	23.9	△ 0.3
	順位	44位	43位	1位↑			
自然死産	実数	128胎	111胎	△17胎	12,245胎	11,940胎	△305胎
	率	12.3	10.8	△ 1.5	11.2	11.1	△ 0.1
	順位	32位	20位	12位↑			
人工死産	実数	184胎	190胎	6胎	14,315胎	13,811胎	△504胎
	率	17.7	18.5	0.8	13.0	12.8	△ 0.2
	順位	42位	45位	3位↓			
8 周産期死亡	実数	52	43	△ 9	4,515	4,315	△ 200
	率	5.1	4.3	△ 0.8	4.2	4.1	△ 0.1
	順位	42位	24位	18位↑			
妊娠満２２週以後の死産	実数	42胎	32胎	△10胎	3,637胎	3,491胎	△146胎
	率	4.2	3.2	△ 1.0	3.4	3.3	△ 0.1
	順位	42位	17位	25位↑			
早期新生児死亡	実数	10人	11人	1人	878人	824人	△54人
	率	1.0	1.1	0.1	0.8	0.8	△ 0.0
	順位	36位	40位	4位↓			
9 婚姻	実数	6,076組	5,667組	△409組	700,214組	661,895組	△38,319組
	率	5.1	4.8	△ 0.3	5.5	5.2	△ 0.3
	順位	21位	24位	3位↓			
10 離婚	実数	2,314組	2,110組	△204組	251,378組	235,719組	△15,659組
	率	1.95	1.78	△ 0.17	1.99	1.87	△ 0.12
	順位	23位	20位	3位↑			
平均発生間隔（平成２３）		出生…５２分３７秒に１人			出生…３０秒に１人		
		死亡…３８分４秒に１人			死亡…２５秒に１人		
		婚姻…１時間３２分４５秒に１組			婚姻…４８秒に１組		
		離婚…４時間９分６秒に１組			離婚…２分１４秒に１組		

注１）出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率は人口千対。乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対。死産率は出産（出生＋死産）千対。周産期死亡率及び妊娠満２２週以後の死産率は出産（出生＋妊娠満２２週以後の死産）千対。

注２）全国順位について、出生・合計特殊出生率・自然増加・婚姻は高率順、他は低率順としている。

＜　結　果　の　概　要　＞

１　出　生

（１）　出生数は９，９８８人で、前年より８４人減少し、２年ぶりの減少となった。

出生率（人口千対）は８．４で前年より０．１減少した。

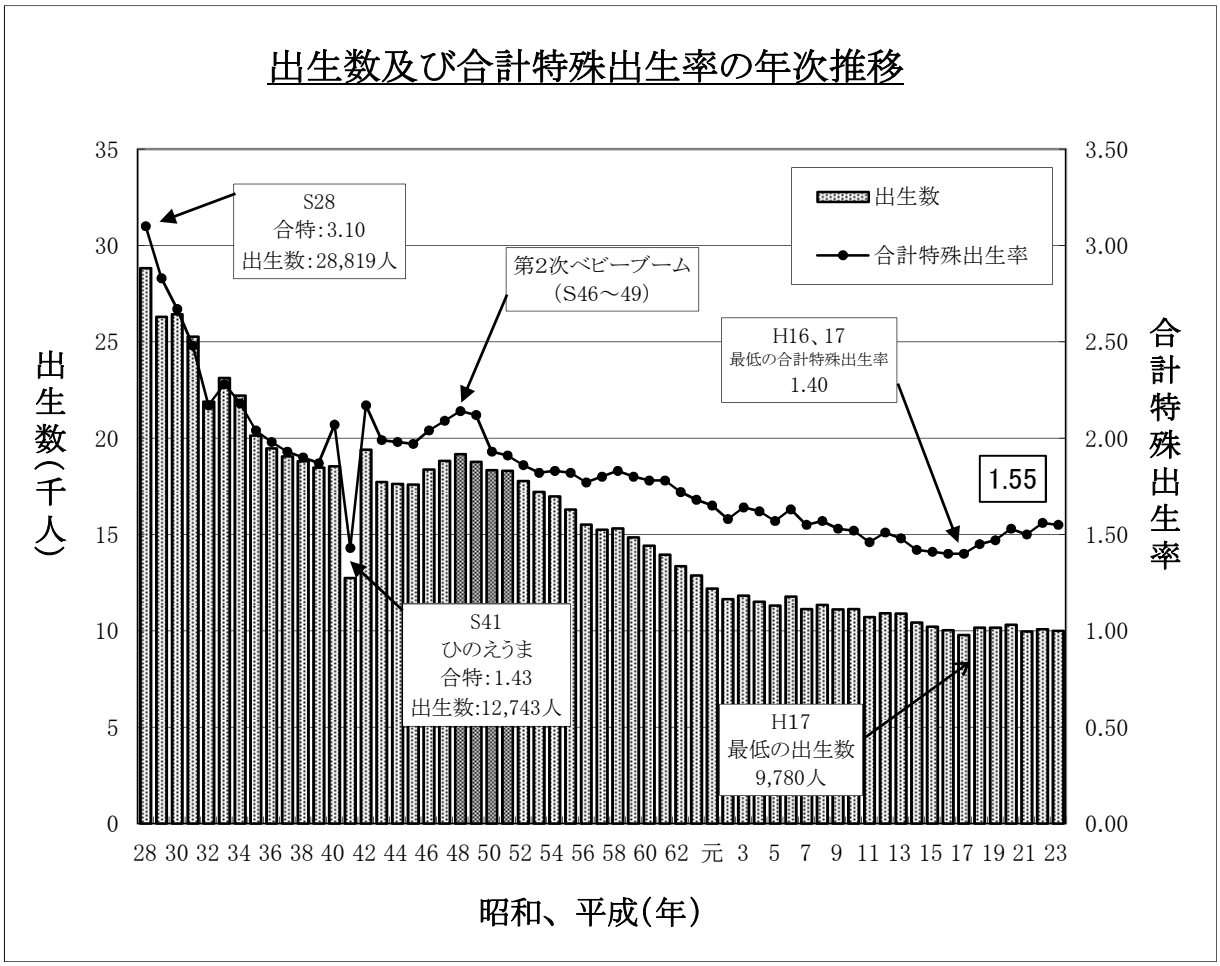
（２）　出生数を母の年齢（５歳階級）別にみると、１０歳代後半で２５人、３０歳代後半で７８人増加し、２０歳代で１２９人、３０歳代前半で５２人、４０歳代で７人の減少となっている。

年齢階級（歳）	出生数 23年	出生数 22年	増減
～14	2	1	1
15～19	137	112	25
20～24	1,202	1,300	△ 98
25～29	3,032	3,063	△ 31
30～34	3,466	3,518	△ 52
35～39	1,854	1,776	78
40～44	289	294	△ 5
45～49	5	7	△ 2
50～	1	1	0
合計	9,988	10,072	△ 84

２　合計特殊出生率

合計特殊出生率は、１．５５で前年の１．５６より０．０１減少したが、４年連続で１．５台を維持した。

なお、全国の合計特殊出生率は１．３９で、前年と同率であった。

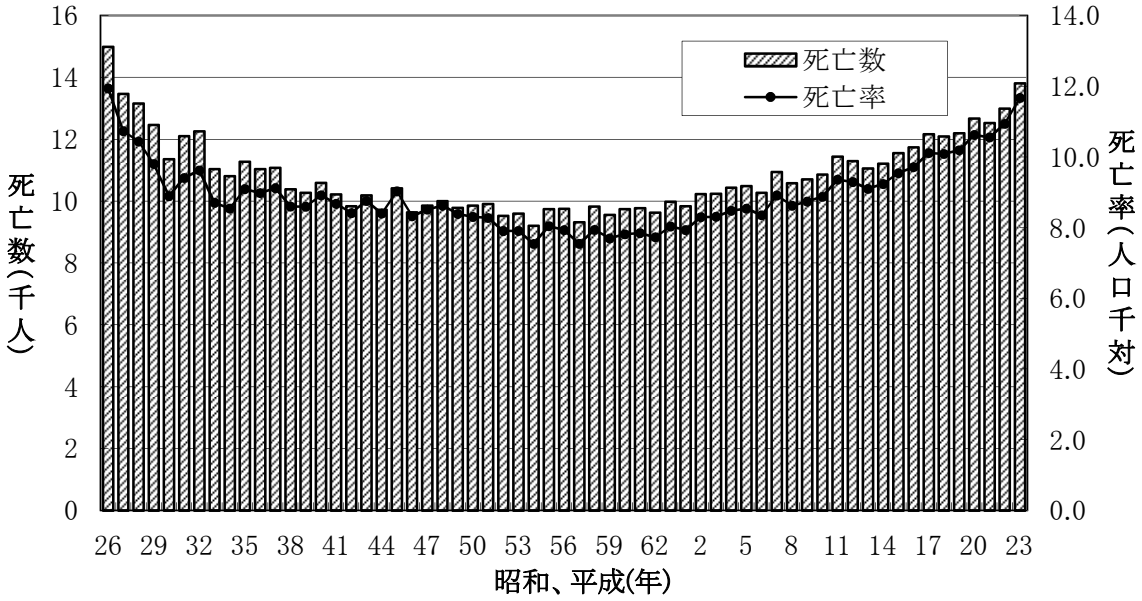


３　死　亡

（１）　死亡数は、１３，８０６人で前年より８１８人増加した。

死亡率（人口千対）は、１１．７で前年の１０．９より０．８上昇した。年次推移を見ると、昭和５０年代後半以降、上昇傾向にある。

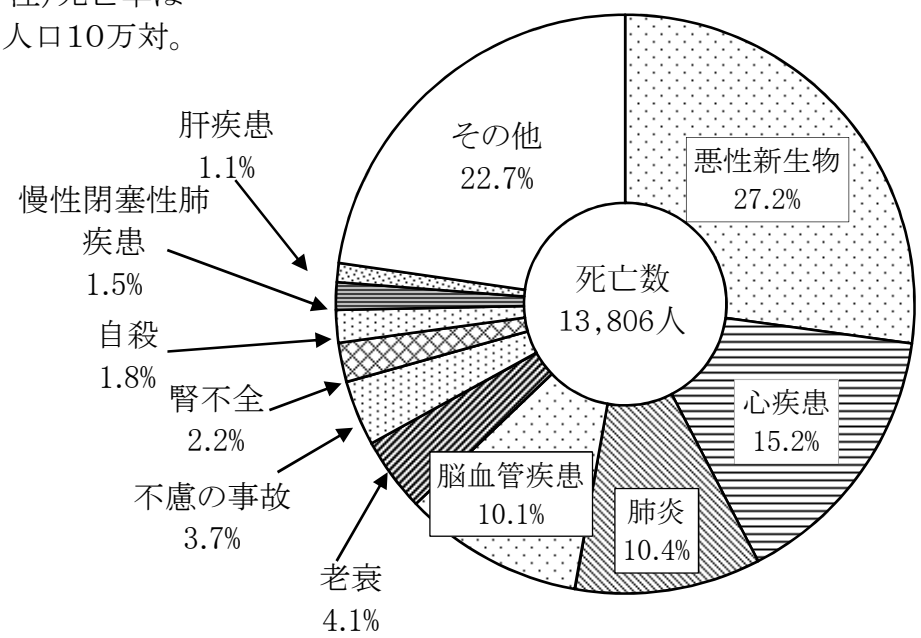
死亡数、死亡率の年次推移



（２）　死因順位についてみると、第1 位は悪性新生物（２７．２％）、第２位は心疾患（１５．２％）、第3 位は肺炎（１０．４％）で、この3 大死因が、死亡数の過半数（５２．８％）を占めている。

死因別死亡割合

注)死亡率は
人口10万対。



また、死因別死亡数を前年と比較すると、減少したのは、腎不全（１１人）や自殺（１５人）であり、増加したのは、悪性新生物（１１０人）や心疾患（１４５人）、肺炎（６２人）などである。

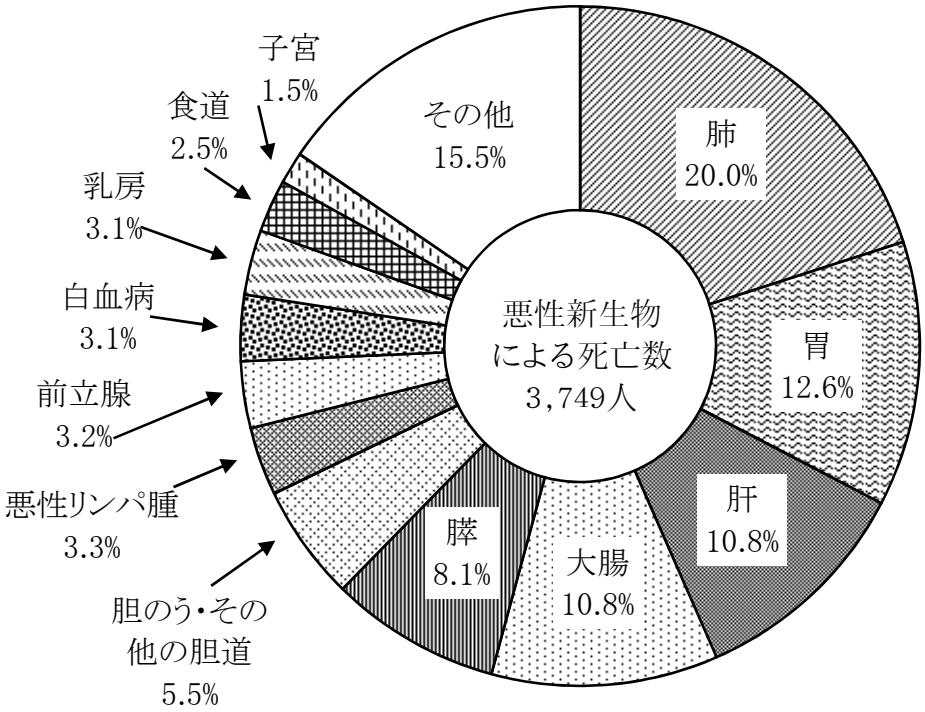
主な死因別死亡数・死亡率

死　因	平成23年				平成22年			対前年比	
	順位	死亡数	死亡率	割合	順位	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
全死因		13,806	1167.0	100.0		12,988	1093.6	818	73.4
悪性新生物	1	3,749	316.9	27.2	1	3,639	306.4	110	10.5
心疾患	2	2,100	177.5	15.2	2	1,955	164.6	145	12.9
肺炎	3	1,433	121.1	10.4	4	1,371	116.5	62	4.6
脳血管疾患	4	1,392	117.7	10.1	3	1,384	115.4	8	2.2
老衰	5	570	48.2	4.1	6	465	41.8	105	6.4
不慮の事故	6	504	42.6	3.7	5	496	39.2	8	3.4
腎不全	7	303	25.6	2.2	7	314	26.4	△ 11	△ 0.8
自殺	8	251	21.2	1.8	8	266	22.4	△ 15	△ 1.2
慢性閉塞性肺疾患	9	210	17.8	1.5	9	207	17.4	3	0.3
肝疾患	10	148	12.5	1.1	10	134	11.3	14	1.2

注）死亡率は人口10万対。

なお、悪性新生物の部位別の死亡順位を見ると、肺がん（２０．０％）を筆頭に、胃がん（１２．６％）、肝がん（１０．８％）、大腸がん（１０．８％）と続き、この4つで悪性新生物の５４．２％を占める。

悪性新生物部位別死亡者数



４　乳児死亡

生後1 年未満の死亡である乳児死亡数は、３２人で前年より５人増加した。

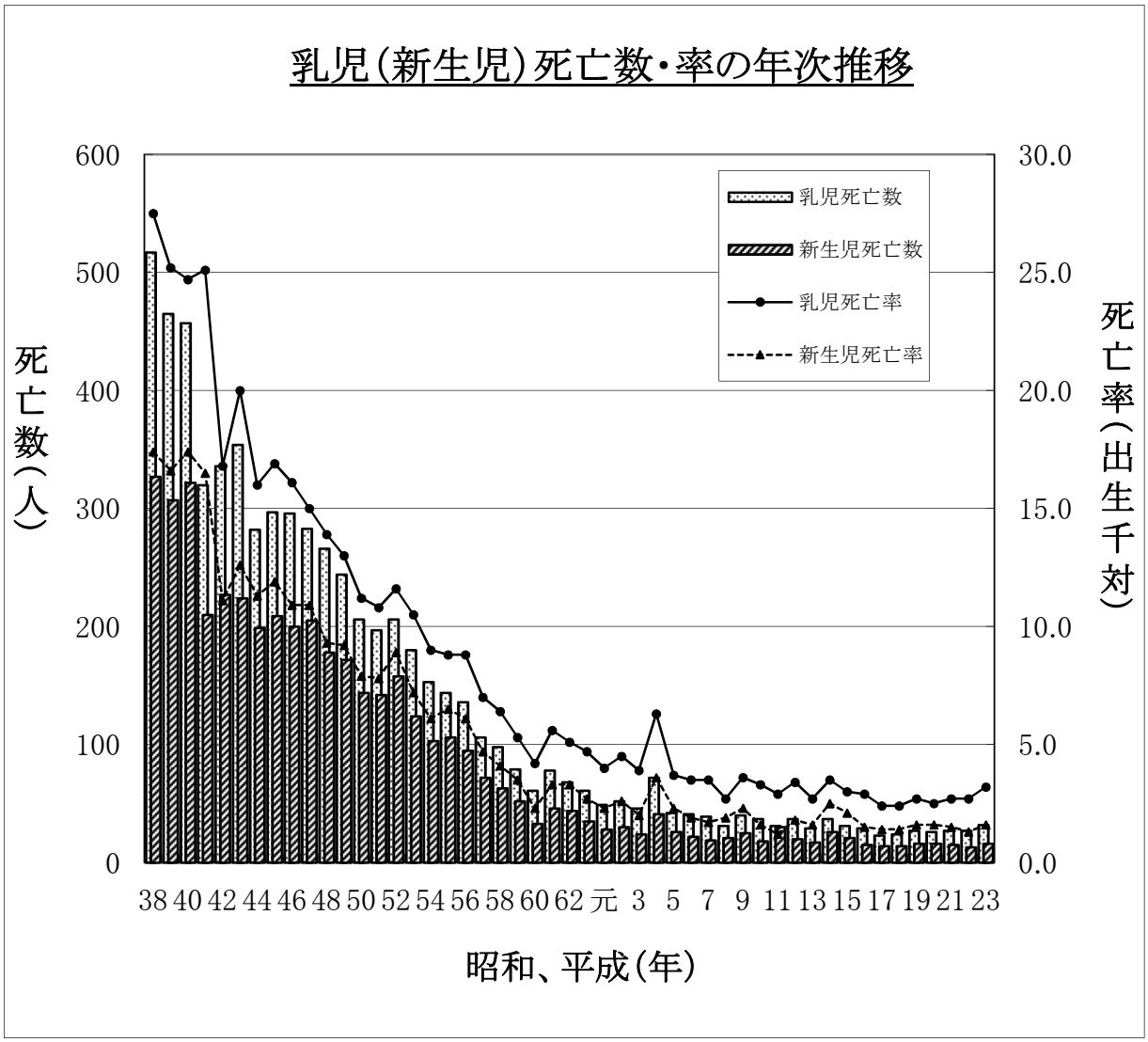
乳児死亡率（出生千対）は、３．２で前年の２．７より増加した。その年次推移をみると、昭和６０年までは急激に低下し、その後は、増減を繰り返しながら、平成５年以降ほぼ横ばいに推移している。

５　新生児死亡

生後4 週未満の死亡である新生児死亡数は、１６人で前年より３人増加した。

新生児死亡率（出生千対）は、１．６で前年の１．３より増加した。

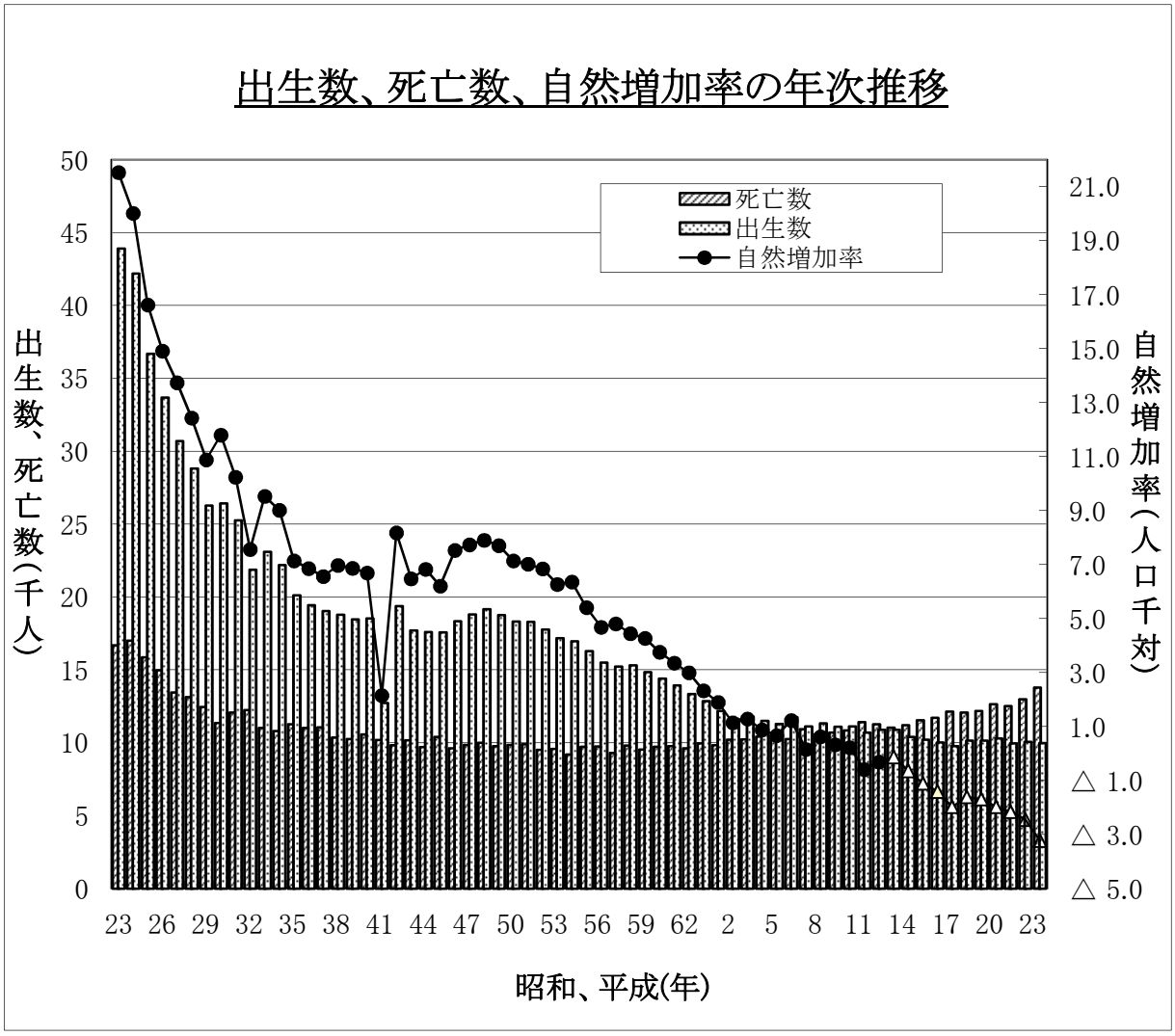
その年次推移をみると、乳児死亡と同様の傾向で推移している。



６　自然増加

自然増加数（出生数－死亡数）はマイナス３，８１８人で、平成１１年以降、死亡数が出生数を上回る自然減の状態となっており、減少数は戦後最大となった。

自然増加率はマイナス３．２と前年のマイナス２．５より減少幅が拡大し、戦後最大のマイナス率となった。

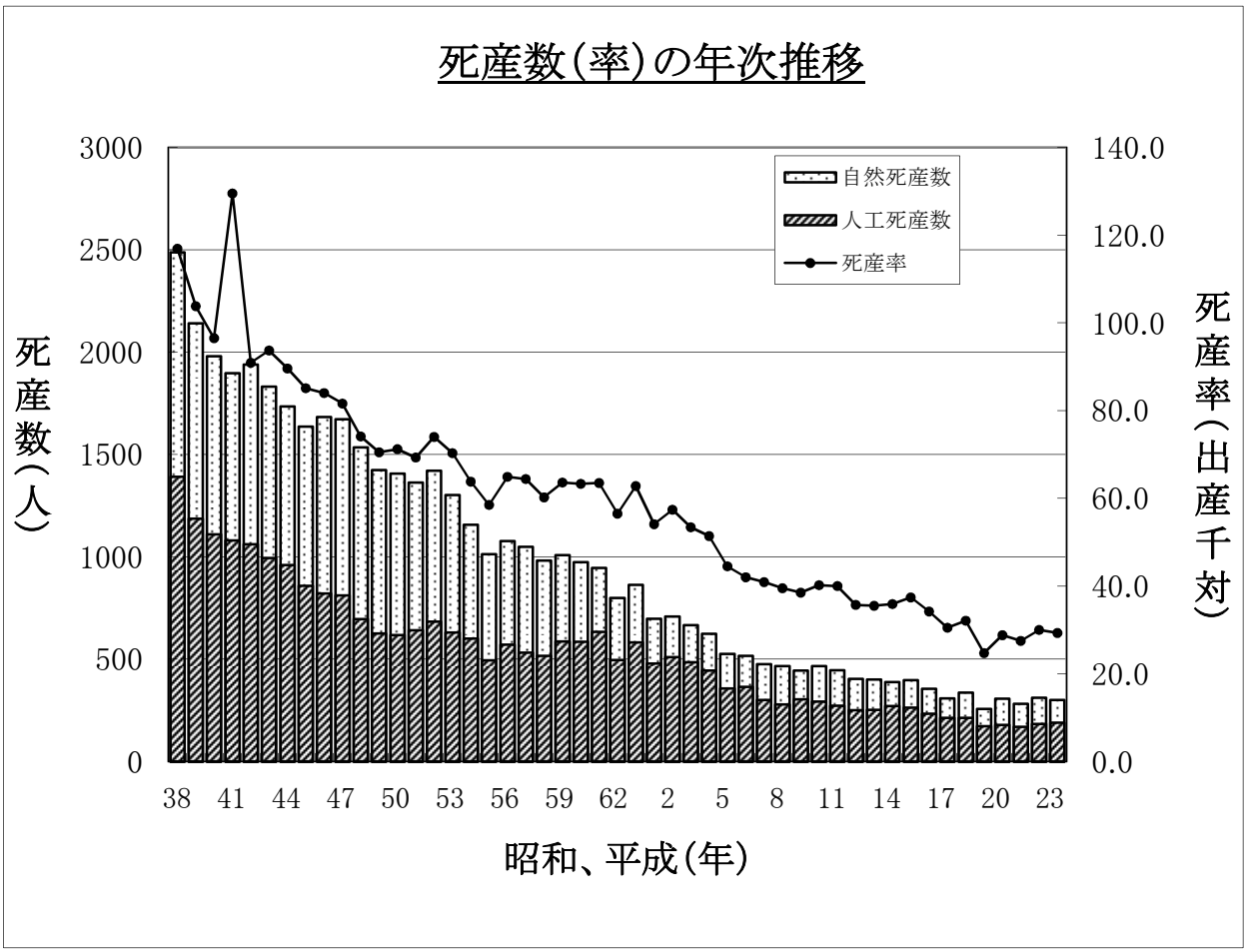


７　死　産

死産数は、３０１胎で前年より１１胎減少した。

その内訳は、自然死産１１１胎、人工死産が１９０胎となっている。

死産率（出産千対）は、２９．３で前年の３０．０より減少した。年次推移をみると増減を繰り返しながら、減少傾向にある。

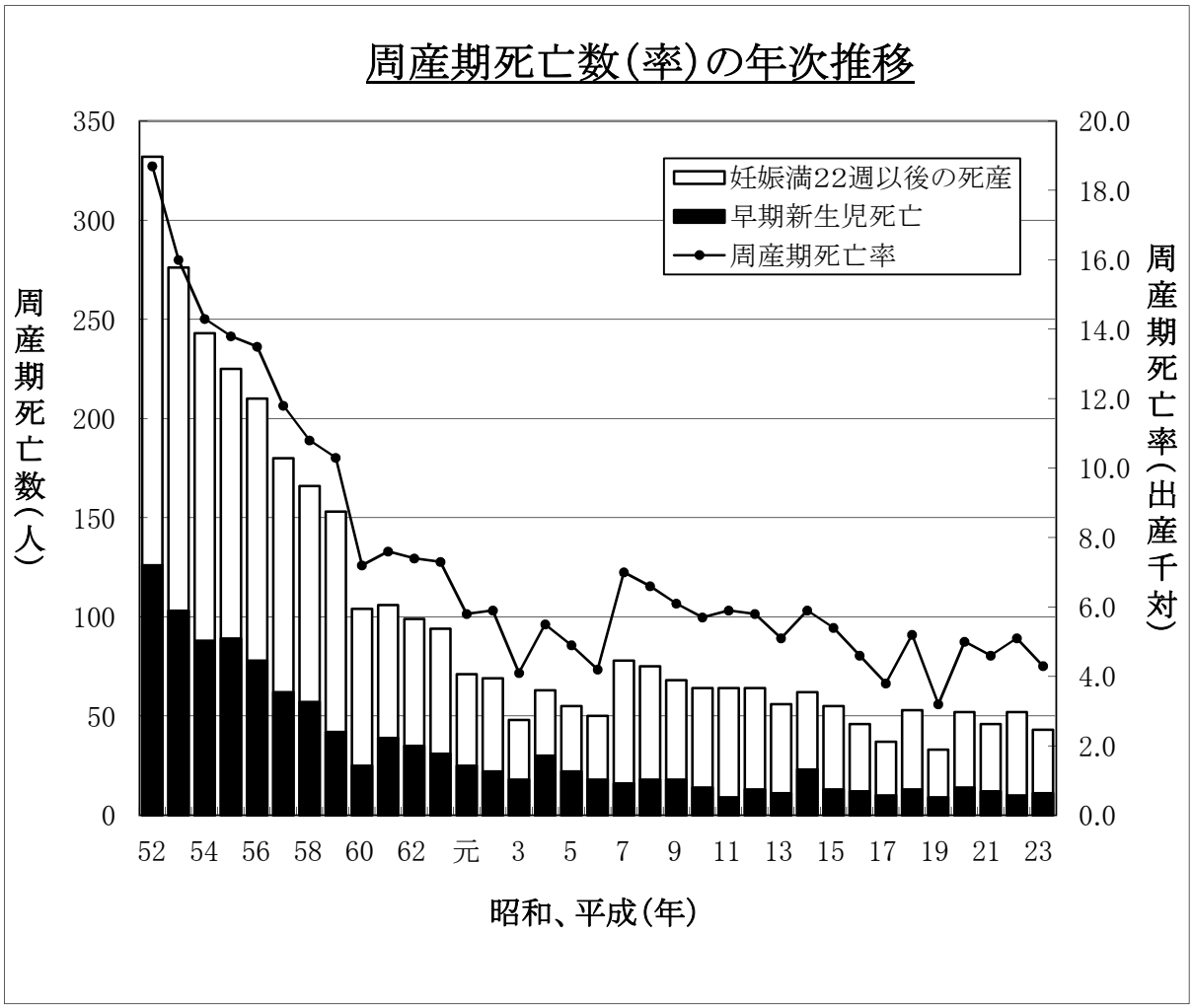


８　周産期死亡

妊娠満２２週以後の死産に、生後1 週未満の早期新生児死亡を加えた周産期死亡数は、４３（胎・人）で前年の５２（胎・人）より減少した。

その内訳は、妊娠満２２週以後の死産が３２胎、生後1 週未満の早期新生児死亡が、１１人となっている。

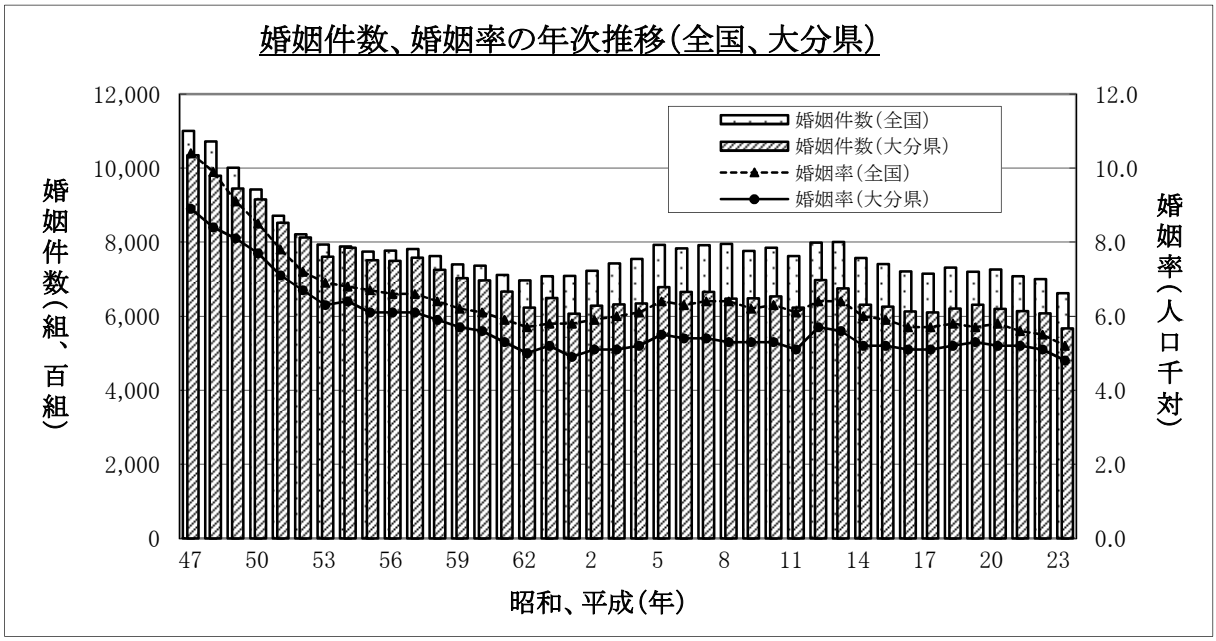
周産期死亡率（出産千対）は、４．３で前年の５．１より減少した。年次推移をみると増減を繰り返しながら、減少傾向にある。



９　婚　姻

婚姻件数は、５，６６７組で、前年より４０９組減少した。

婚姻率（人口千対）は、４．８で前年の５．１より減少した。その年次推移をみると、昭和４８年以降低下を続けた後、平成に入ってほぼ横ばいに推移している。

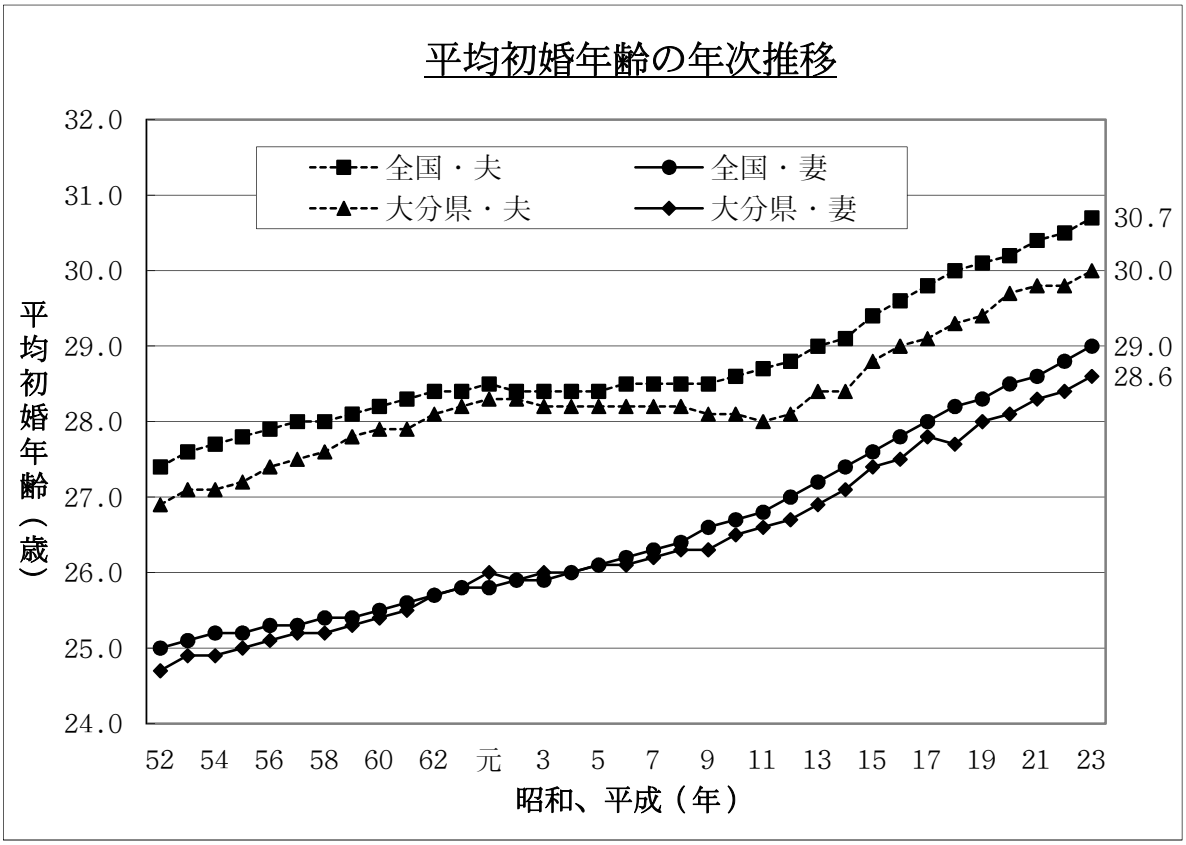


なお、平均初婚年齢は、夫３０．０歳、妻２８．６歳であった。

夫については、平成に入ってほぼ横ばいであったが、平成１３年以降上昇傾向にある。妻については、ゆるやかであるが、ほぼ毎年上昇が続いている。

平均初婚年齢の年次推移

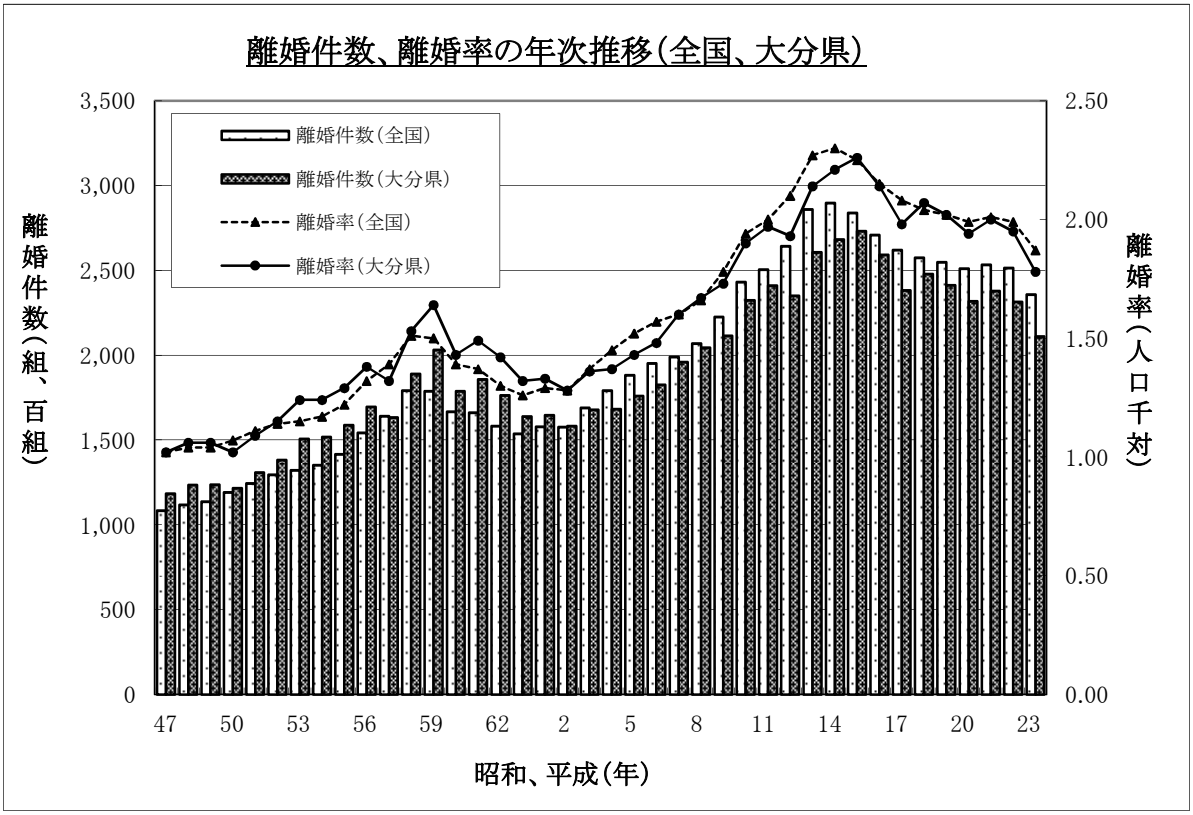
	夫		妻	
	大分県	全　国	大分県	全　国
平成9	28.1	28.5	26.3	26.6
10	28.1	28.6	26.5	26.7
11	28.0	28.7	26.6	26.8
12	28.1	28.8	26.7	27.0
13	28.4	29.0	26.9	27.2
14	28.4	29.1	27.1	27.4
15	28.8	29.4	27.4	27.6
16	29.0	29.6	27.5	27.8
17	29.1	29.8	27.8	28.0
18	29.3	30.0	27.7	28.2
19	29.4	30.1	28.0	28.3
20	29.7	30.2	28.1	28.5
21	29.8	30.4	28.3	28.6
22	29.8	30.5	28.4	28.8
23	30.0	30.7	28.6	29.0



１０　離　婚

離婚件数は、２，１１０組で前年より２０４組減少した。

離婚率（人口千対）は、１．７８で前年の１．９５より減少した。



（参 考）用語等の説明

1　用語の解説

○自然増加　出生数から死亡数を減じたもの。　○新生児死亡　生後 4 週未満の死亡。

○乳児死亡　生後 1 年未満の死亡。　○早期新生児死亡　生後 1 週未満の死亡。

○死　　産　妊娠満 12 週（妊娠第 4 月）以後の死児の出産をいい、死児とは、出産後において心臓膊動、随意筋の運動及び呼吸のいずれも認めないものをいう。

○自然死産と人工死産　人工死産とは、胎児の母体内生存が確実であるときに、人工的死産処置（胎児又は付属物に対する措置及び陣痛促進剤の使用）を加えたことにより死産に至った場合をいい、それ以外はすべて自然死産とする。

なお、人工的処置を加えた場合でも、次のものは自然死産とする。

（1）　胎児を出生させることを目的とした場合

（2）　母体内の胎児が生死不明か、又は死亡している場合

○周産期死亡　妊娠満 22 週（154 日）以後の死産に早期新生児死亡を加えたものをいう。

○日本人人口　総人口から外国人人口を減じたものをいう。

2　比率の解説

○出生率 $= \dfrac{\text{年間出生数}}{\text{10 月 1 日現在日本人人口}} \times 1{,}000$　○乳児死亡率 $= \dfrac{\text{年間乳児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1{,}000$

○死亡率 $= \dfrac{\text{年間死亡数}}{\text{10 月 1 日現在日本人人口}} \times 1{,}000$　○新生児死亡率 $= \dfrac{\text{年間新生児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1{,}000$

○自然増加率 $= \dfrac{\text{自然増加数}}{\text{10 月 1 日現在日本人人口}} \times 1{,}000$　○死産率 $= \dfrac{\text{年間死産数}}{\text{年間出産数（出生数＋死産数）}} \times 1{,}000$

○自然死産率 $= \dfrac{\text{年間自然死産数}}{\text{年間出産数（出生数＋死産数）}} \times 1{,}000$

○人工死産率 $= \dfrac{\text{年間人工死産数}}{\text{年間出産数（出生数＋死産数）}} \times 1{,}000$

○周産期死亡率 $= \dfrac{\text{年間周産期死亡数}}{\text{年間出産数（出生数＋妊娠満 22 週以後の死産数）}} \times 1{,}000$

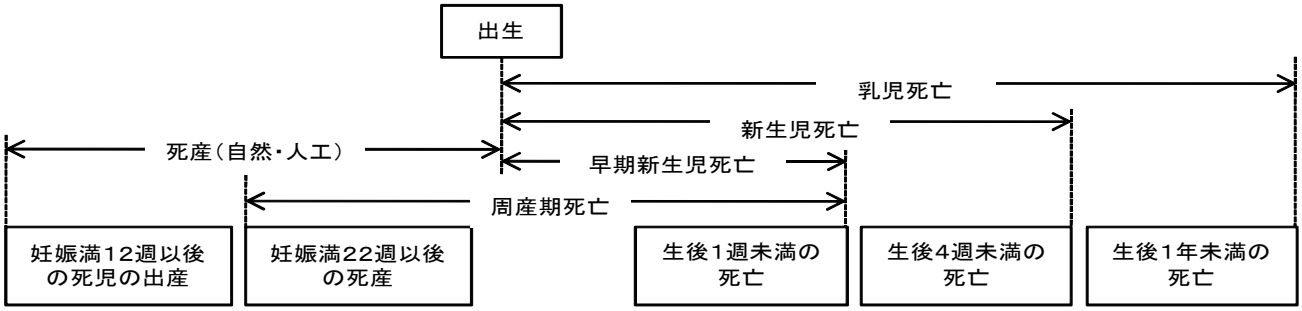
○妊娠満 22 週以後の死産率 $= \dfrac{\text{年間妊娠満 22 週以後の死産数}}{\text{年間出産数（出生数＋妊娠満 22 週以後の死産数）}} \times 1{,}000$

○早期新生児死亡率 $= \dfrac{\text{年間早期新生児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1{,}000$

○婚姻率 $= \dfrac{\text{年間婚姻届出件数}}{\text{10 月 1 日現在日本人人口}} \times 1{,}000$　○離婚率 $= \dfrac{\text{年間離婚届出件数}}{\text{10 月 1 日現在日本人人口}} \times 1{,}000$

○合計特殊出生率 $= \left\{ \dfrac{\text{母の年齢別出生数}}{\text{年齢別女子人口}} \right\}$ 15 歳から 49 歳までの合計

15 歳から 49 歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1 人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ども数に相当する。

○死因別死亡率 $= \dfrac{\text{年間死因別死亡数}}{\text{10 月 1 日現在日本人人口}} \times 100{,}000$

3　死産及び乳児死亡等の関係図